

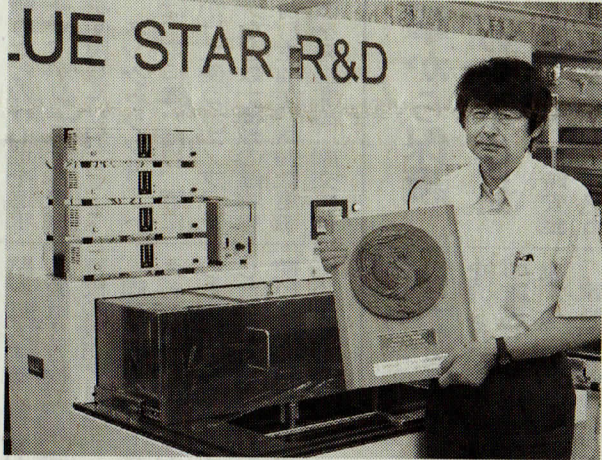
第41回発明大賞

相模原の2社が受賞 ブルー・スターと向洋技研

日本発明振興協会が主催する「第41回発明大賞」(後援・文科省、経産省)で、相模原市内の製造業2社が受賞した。いずれも初受賞で、発明により産業の発展や国民生活の向上への貢献が認められた。

ブルー・スターR&D(相模原市中央区横山台)の「超音波バリ取り洗浄装置」は、日本発明振興協会会長賞に選ばれた。アジアや欧米にシェアを拡大し、バリ取りの請負いや実験も急速に増加している。

同社によると、より強力な新しい原理に基づく、超音波バリ取り実験装置を完成させ、3月末に移働している。新機種は根元の厚いバリやゴム



ブルー・スター R&Dの超音波バリ取り洗浄装置

(オーリング)などのバリ取りにも使える。年内の実用化を目指す。

同社は「国内製造業に与える影響の大きさと今後の販売見通しが評価された結果だ」と思う。現在、さらなる開発を進めており、外国との取り引きに十分対応できる体制を構築している」とコメントした。

発明功労賞を受賞した「高速溶接技術を搭載したテーパルススポット溶接機」は、向洋技研(同区田名)が開発した。大電流を瞬時に流すことで、溶接痕を残さない溶接を可能にした。スポット溶接の「革命」と評価されている。

主催者の日本発明振興

協会が行ったアンケートでは、「信用が高まった」という答えが複数回答で28%だった。「社内の士気が高まった」が同27%、「販売実績が上がった」が同17%。大賞が発明の功績をたたえるにとどまらず、企業のその後の業績向上などに効果があるという。